

NRI CSR BOOK 2016

CSRブック2016



未来創発

Dream up the future.

野村総合研究所は、
新たな未来を創り出します。

NRIグループの企業理念は「未来創発」です。
変化が激しく先の予測がつかないこの時代。
社会をしっかりと見据えながら
確かな未来を切り拓いていきたい。
そのために、新しい価値を創造することで
世の中に貢献したいと私たちは願っています。
NRIグループは「未来社会創発企業」として
あくなき挑戦を続けていきます。

ごあいさつ

野村総合研究所（NRI）は、調査・コンサルティングから情報システムの設計・構築・運用まで、一貫したサービスを提供しています。

当社は、社会や企業の今後の方向性を洞察し、あるべき姿の実現に向けて提言を行う「ナビゲーション」機能と、お客様と共に課題に対する解決策を考え、その手段となる的確な情報システムを作って安全に稼働させる「ソリューション」機能を提供しています。この2つを相乗的に機能させて提供することが、NRIグループの独自性をかたち作っています。

こうした独自の強みを発揮することで、企業市民の一員であるNRIグループは、事業を通じて社会的責任を果たしてまいります。社会のライフラインとなるIT(情報技術) サービスを提供する責任を自覚し、サービスの品質向上にたゆまず取り組んでいきます。同時に、そうした諸活動が真に社会の役に立っているかどうかを確認し、唯我独尊に陥らないよう、さまざまな関係者の声に真摯に耳を傾け、自らの行動を律していく所存です。

最後に、東日本大震災からは5年以上が経過しましたが、依然として復興の途上にあります。4月に発生した熊本地震でも、多くの方々が被災されました。一日も早い復興・復旧を心よりお祈りするとともに、被災地を含む日本全体の活性化に向けて、引き続き全力を挙げて支援してまいります。

株式会社野村総合研究所
代表取締役社長

此本 臣吾



若い世代と未来を考え、未来をつくるための軌跡 「NRI学生小論文コンテスト」の10年



NRIグループが毎年、大学生、留学生、高校生を対象に開催している「NRI学生小論文コンテスト」は、2015年に10周年を迎えました。「未来創発」を企業理念とするNRIだからこそ、将来を担う若い人たちに、未来への夢を持ち、その実現に向けて考えて欲しい。そんな想いのもと、コンテストを開始したのが2006年。6～7月に論文募集を開始、8～9月に締め切り、数段階の審査を経て11～12月に入賞者発表、というのが毎回の流れです。

毎年テーマは変わるものの、学生の皆さんからは、日

本と世界の新たな関係づくりや、未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIグループ社員にとっても、若い人たちとともに未来について考える機会となることを大切にしています。そのため社員も、論文の審査や、学校を訪れてのコンテスト告知活動に関わっています。さらに、コンテストで受賞した学生たちの提案を社会に公表することも大切に、毎年、webサイトや冊子にまとめて発信しています。多様な世代がこのコンテストをきっかけに、未来について考えていく。それがNRIグループの願いです。

未来への夢と実践 10年間の論文テーマ

これまでのコンテストで提示された募集テーマです。毎年異なるものの、未来社会に向けて応募者が描く夢と、その実現方法を提案することで一貫しています。

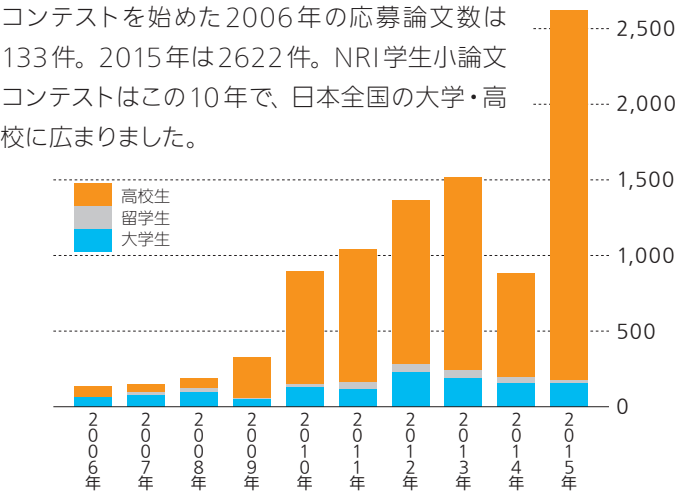
	大学生・留学生の部	高校生の部
第1回（2006）	ユビキタスネット時代のITと人間の関わり―ITが壊す“壁”、人が創る価値	モチベーションクライシス― 新時代の若い世代の働きがいとは
第2回（2007）	日本が世界と共生するには	「日本から見た世界」または「世界から見た日本」
第3回（2008）	日本の「第三の開国」に向けて	2015年の日本人像・家族像
第4回（2009）	ITを活用した日本発ビジネス	日本はコレで世界一になる！
第5回（2010）	日本が世界のためにできること	世界のなかで日本の魅力を高めるには
第6回（2011）	2025年、新しい“日本型”社会の提案	2025年の日本を担うわたしの夢
第7回（2012）	自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会	
第8回（2013）	あなたが考える“わくわく社会”を描いてください	
第9回（2014）	創りたい未来社会― あなたの夢とこだわり	
第10回（2015）	2030年に向けて―「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」	

社会へ発信 受賞論文記録集の発行

毎年、受賞論文を記録集にまとめ、学校や学生に配布するほか、NRIのwebサイトに掲載して社会に発信しています。



増え続ける応募論文 10年間の応募論文数



厳正かつ丁寧に 審査の過程



本コンテストの論文審査は、応募者の学校名、氏名などを秘匿したうえで、事務局による予備審査、NRIグループ社員による一次審査、審査委員による二次審査および最終審査を経て、入賞論文が選出される流れです。審査委員会には7人前後のNRIグループ社員に、特別審査委員としてジャーナリストの池上彰氏、そしてノンフィクションライターの最相葉月氏（2009年から）を迎えています。最終審査会では審査委員が一堂に顔をそろえ、一つひとつの論文について評価理由を挙げながら、丁寧な議論を展開しています。



NRIグループ社員へのプレゼンテーション 発表の機会



2010年からは、応募論文にまとめた内容をプレゼンテーションする論文発表会を実施しています。コンテストの受賞者が、論文審査に加わったNRIグループ社員や役員などに自分の考えを伝えるもので、受賞者にとっては、普段の学校とは異なる「社会」を経験する貴重な機会となっています。ここには、過去の「NRI学生小論文コンテスト」で受賞したOB・OGも招かれ、その年の受賞者たちとの交流を深めています。未来社会をテーマにさまざまな世代が意見を交わし、新たな関係が生まれています。



審査委員にとっての「NRI学生小論文コンテスト」



審査委員長
谷川 史郎
NRI理事長

学生の皆さんから寄せられる若さ溢れるエネルギーあふれる文章に、毎回、目を覚まされると同時に、たくさんの元気と勇気をもらうことができます。この小論文コンテストが、これからの日本を担う皆さんの、夢や希望への足がかりになれることを期待しています。



特別審査委員
池上 彰 さん
ジャーナリスト、名城大学教授、
東京工業大学特命教授

2006年から毎年「NRI学生小論文コンテスト」の審査に参加しています。応募論文を読んで若い世代の方々の新鮮な発想に触れ、表彰式で受賞者の方たちにお会いするのを、楽しみにしています。また、本コンテストの審査は私自身の勉強にもなっています。



特別審査委員
最相 葉月 さん
ノンフィクションライター

先人たちが築き上げてきた歴史の上に現在があるように、未来は私たちが生きる現在の上にあります。この先、どんな未来が訪れ、そこで我々がどんな生き方をするのか――。今この時の自分の想いを出発点にしながら、思考を深めてほしいと思います。

本コンテストに参加する若い世代の方々の応募動機を振り返ると、「自分の考えをまとめ、伝える機会が欲しかった」「自分への挑戦」「学生生活の集大成」「テーマが魅力的だった」「未来や世界を良くしたい」などが多く挙がっています。

これまでのコンテストに参加したOB・OGの中には、論文で提案したことを行動に移すべく、進路を決めたり、新たな社会への一歩を踏み出したりしている方がいます。例えば、第1回のコンテストで受賞した大学生（当時）は、

論文にまとめた内容をきっかけに起業して、web系の事業を営んでいます。2012年のコンテストで受賞した医学生（当時）は、論文が契機となり、現在は官僚として国の政策立案に携わっています。

NRIグループは、このNRI学生小論文コンテストだけでなく、その他のコンテストや、さまざまなキャリア教育プログラムを実施しています。このような「人づくり」施策を通じて、未来を切り拓いていく若者たちの育成に、これからも力を注いでいきます。

CSRブック2016 Contents



企業理念
ごあいさつ

1



震災復興支援

8 | 9



情報セキュリティ

16 | 17



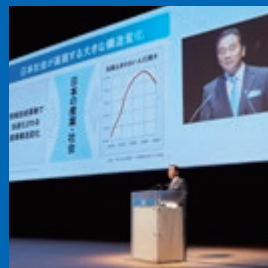
職場

24 | 25



企業理念
ごあいさつ

1



調査と提言

10 | 11



高齢化社会

18 | 19



ステークホルダー
との対話

26 | 27



特集
「NRI学生小論文
コンテスト」
の10年

2 | 3



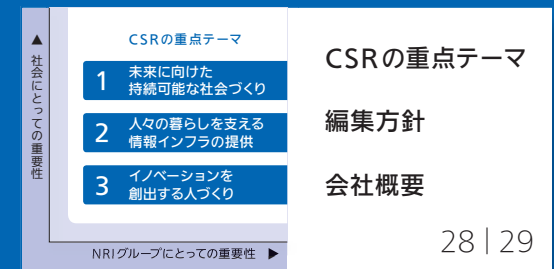
社会のインフラ

12 | 13



環境への配慮

20 | 21



特集
「NRI学生小論文
コンテスト」
の10年
(続き)

4 | 5



グローバル支援

14 | 15



人づくり支援

22 | 23



あのときも今も、NRIだからこそできることを



オリジナル教育プログラム実施の様子

事業を通じて培ったノウハウと経営資源を活用して
東日本大震災復興に向けた支援を続けています。

事業を通じて培ったノウハウを活用して、世の中に役立つこと。これが、NRIらしい社会貢献のあり方です。東日本大震災が起きたときは直後に「震災復興支援プロジェクト」を立ち上げ、NRIに実績がある、エネルギー、産業振興、物流などの分野を中心に、復興に向けた緊急対策を提言しました。また、被災者と支援者をつなぐ情報システムを開発し、無償で提供しました。震災から5年がたちましたが、復興に向けた努力はまだまだ必要です。NRIは、被災地の復興には先進的な地域づくりが必要と考え、そのための取り組みを続けています。2015年には、福島県会津若松市において避難生活が続ける大熊町立大野小学校・熊町小学校の児童に、NRI社員がオリジナル教育プログラムを実施しました。被災地の実態を踏まえた支援を、NRIグループは続けています。

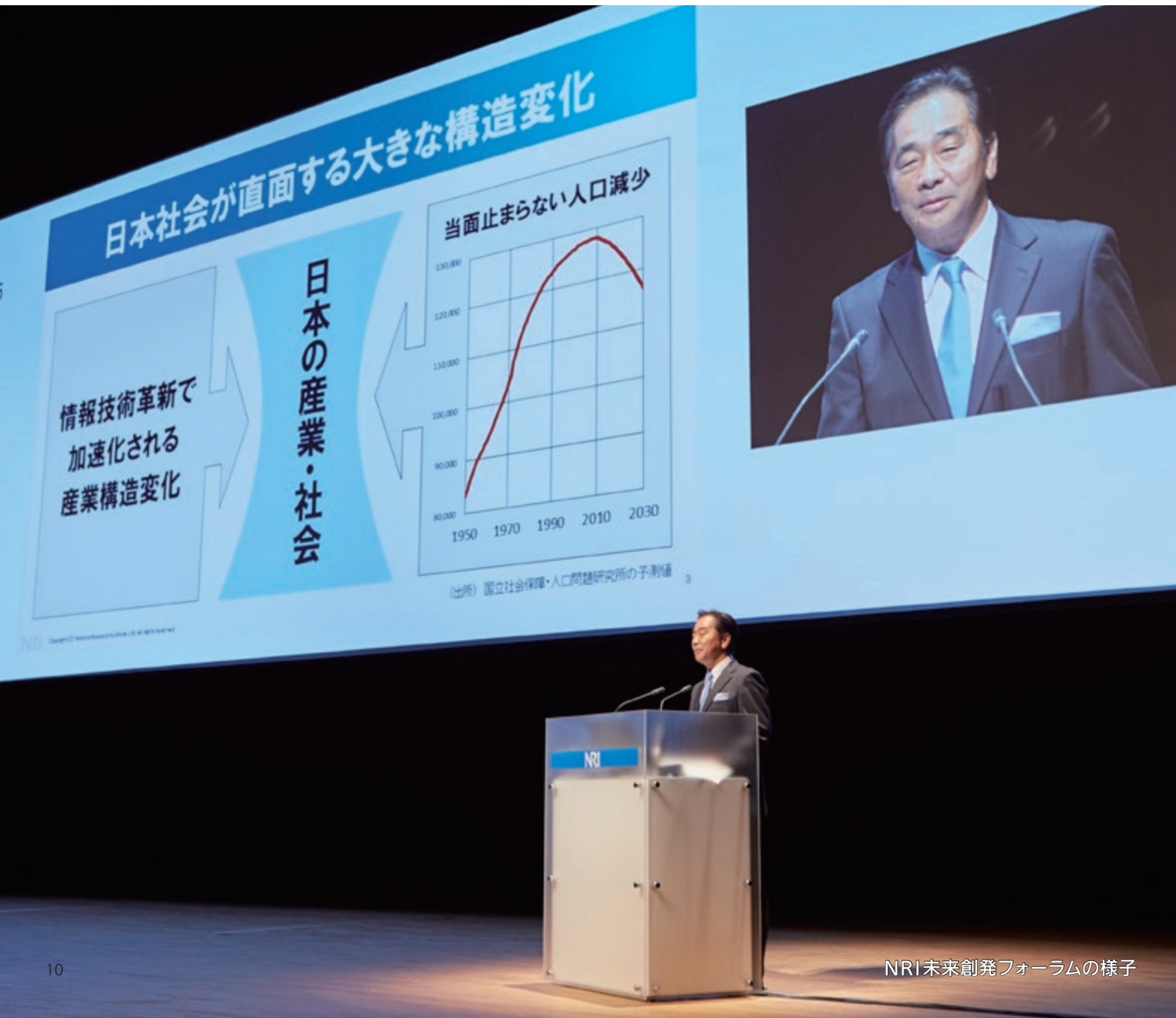
不要になった書籍が、被災地の新たな価値に

NRIは2015年4月、福島県会津若松市に避難している同県大熊町教育委員会に「電子黒板」2台を寄贈しました。これは、オフィスの整理整頓の結果、不要となった2万冊余りの書籍を売却した代金を、児童のICT教育に役立ててもらいたいと贈ったものです。少しでも被災地の人づくり支援に役立てればと、「心」を通わせる授業につなげました。



不要となり、集められた書籍

豊富な知見が、よりよい未来社会の実現に



NRI未来創発フォーラムの様子

調査・研究活動の成果を発信し
社会に貢献しています。

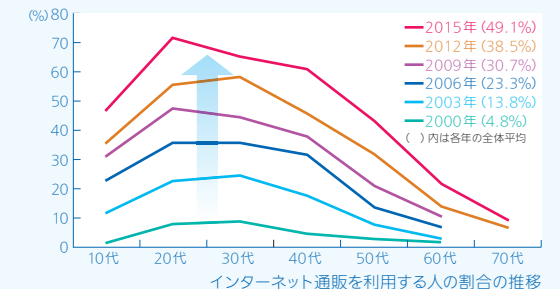
NRIグループは創業時から多様な分野で調査・研究活動を行い、その成果をレポートや書籍、フォーラムなどで発信してきました。報道関係者を対象に、情報提供や意見交換を目的に開催している「NRIメディアフォーラム」もその一つ。2003年から継続的に実施しています。例えば、最近は以下のようなテーマで発表しました。

- ・ 2025年の住宅市場（空き家の実態と有効活用に向けた検討）
- ・ 確定拠出年金の利用実態調査報告（法改正を見越した実態報告）
- ・ 中国人訪日旅行者の実態とニーズ（「爆買い」中国人の本当の姿）
- ・ 生活者1万人アンケートにみる日本人の価値観・消費行動の変化
- ・ 「ITナビゲーター2016年版」（ICT・メディア市場の予測）

NRIグループは、こうした調査・研究活動の成果を社会に発信することで、よりよい未来社会の実現に貢献しています。

日本人の価値観がわかる「生活者1万人アンケート」

NRIは、日本全国の男女1万人を対象にした「生活者1万人アンケート」を1997年から3年おきに実施して、日本人の価値観や消費意識の変容などを分析しています。本調査から、例えば、インターネット通販を利用する人が、この15年間に大幅に増えてきたことが明らかになっています。



社会の仕組みを支える、大きな責任



上空から眺めると「円」の文字に見える日本銀行本店本館

社会インフラになっている情報システムを安全に動かし続けることがNRIの責任です。

NRIグループは、社会の仕組みを支えるさまざまな情報システムを提供しています。その一つが、ホールセール証券業務を総合的にカバーする「I-STAR」です。1987年のサービス開始以来、100社以上の金融機関に導入され、今日では日本のホールセール証券業務をサポートする標準的な仕組みとなっています。その機能の一つに、「I-STAR/LC」があります。これは、金融機関同士の資金や国債の決済を担う日本銀行のシステム「日銀ネット」を通じた決済の管理をサポートするものです。日銀ネットにおいて、コンピュータ接続方式を利用する金融機関の約半数に利用されており、日本の資金決済を支える重要なインフラとして貢献しています。

社会の仕組みとなり、利用企業の事業を支える情報システムを提供するNRIグループは、情報システムを安全に動かし続けることが、社会に果たす最大の責任であることを常に心がけています。

金融機関向けアウトソーシングサービス、米国で受賞

NRIの金融機関向けアウトソーシングサービス「プライム・セトルメント・サービス」が、米国のウォール・ストリート・レター・インスティテューショナル・トレーディング・アワード2016で、ベスト・ユーティリティ・テクノロジー賞を受賞しました。「I-STAR」を利用したこのサービスは、金融機関のバックオフィス業務を標準化し、より効率的で安定的な運用を可能にするものとして世界で注目されています。



受賞式の様子

企業の成長をグローバルに後押しする

情報システムによって、企業理念を支え、
事業のグローバル展開をサポートしています。

日本を含め、世界49の国・地域で公文式教室を展開する株式会社公文教育研究会（KUMON）。同社では「『生徒一人ひとり』を大切に、個々に与えられた可能性を発見し、その能力を最大限に伸ばす」という企業理念をもとに、教育活動を通じて、社会に貢献しています。約2万5000教室、426万人の学習者の情報管理や、指導者サポートを行う世界共通の次世代基幹システムの運用が、2014年に北米と英国で始まり、その後、欧州、アフリカ、南米、アジアの国・地域に順次展開されています。NRIグループは、この次世代基幹システムに関して、設計から構築・運用、および各国への展開をサポートしています。

NRIグループは、戦略づくりや、その実現に必要な情報システムの構築・運用を通じて、企業のグローバルな事業展開を支えています。

日本企業のアフリカ進出を支援

近年、急成長するアフリカ市場。NRIはアフリカ市場を調査し、日本企業の事業進出を支援しています。これまでの知見をまとめた『アフリカ進出戦略ハンドブック』では、アフリカ進出に向けた戦略や事例、進出国の選定方法、現地パートナーの探し方などを提言しています。



情報セキュリティは、人が守る



セキュリティオペレーションセンター

サイバー社会の安全に向けて セキュリティ人材の育成に取り組んでいます。

情報セキュリティ対策は、個人や一企業の問題にとどまらず、国の安全を左右する重要なテーマとなっています。NRIグループの情報セキュリティ専門企業である「NRIセキュアテクノロジーズ」は、この分野における日本での草分けであり、企業の情報システムやネットワークの安全を守る活動を続けてきました。サイバー攻撃が巧妙化するなか、今後のセキュリティ対策に不可欠となるのは情報セキュリティ業務に通じた人材です。NRIセキュアテクノロジーズは多くの企業に、技術・マネジメントの両面から情報セキュリティを支える人材育成サービスを提供しています。情報セキュリティに関わる先端技術や手法、法制度などを常にとらえながらソリューションを提供し、セキュリティ分野の人材を育てること。それが、NRIセキュアテクノロジーズが社会に果たす責任です。

ファイアウォール ネットワーク センター

NRIセキュアテクノロジーズが提供する主なサービスの一つに、「ファイアウォール ネットワーク センター」があります。インターネット接続におけるウイルスや不正侵入など外部からの脅威と、情報漏洩など内部からの脅威に対して、総合的な対策を提供しています。



誰もが活躍できる、地域社会を



期待される、高齢者の社会参加を促す仕組みづくり

高齢者の活躍と地域の活性化を 情報システムを通じて支えています。

急速に進む日本の高齢化と人口減少。今後は地域社会を支える力として、高齢者の社会参加が期待されています。そこで重要となるのが、高齢者のパワーと地域のニーズをつなぐ公益法人「シルバー人材センター」です。地域社会で高齢者が活躍できる機会を提供すべく、市区町村に設置されています。「NRI社会情報システム」は「エイジレス80」という業務システムを通じて、シルバー人材センターの業務をサポートしています。1985年にサービスを開始して以来30年。今では全国の約70%となる、およそ700のセンターでエイジレス80が活用されています。元気な高齢者には社会での活躍を促し、サポートが必要な人には周囲の連携によってニーズに合ったサービスが行き届く。NRI社会情報システムは、そんな未来社会の実現を目指しています。

「高齢者向け住まい」に関する定点調査の実施

団塊世代のリタイアを経て、近年、特別養護老人ホーム等の「介護保険施設」とは異なる「高齢者向け住まい」（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等）が増えています。NRIは、厚生労働省から老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）を受け、2014年度より、これらの入居者像や提供サービスの変化を把握・分析する定点調査を実施しています。



環境負荷低減に向けた、たゆまぬ努力



温暖化ガス削減目標を制定し、全力を挙げて
環境負荷低減に取り組んでいます。

NRIグループは、環境負荷低減に向けたさまざまな取り組みを進めています。例えば、一つの情報システムを複数の企業で利用するNRIの「共同利用型サービス」。各企業が独自に開発・運用していたシステムを共同利用型にすることで、電力消費を抑え、CO₂の大幅削減を可能にしました。また、こうしたシステムを運用するNRIのデータセンターは、最新省エネ技術の導入により電力使用の効率化を実現しています。さらに、温暖化ガスの削減目標制定による組織的な環境負荷低減への取り組みや、全社員への計画的な環境教育を実施しています。生物多様性の確保では、自社施設における自然植生に配慮したヤマザクラの植樹や、ユネスコエコパークである福島県只見町への寄付など、生物多様性に関する活動も行っています。NRIグループは、これからも地球環境への配慮を一層強化していきます。

「気候変動情報開示先進企業」に選定

NRIは、2015年度の「気候変動情報開示先進企業（CDLI）」に選定されました。NRIの地球温暖化防止への取り組みが、企業の気候変動に関する情報開示を評価・格付けする国際非営利団体CDPから高く評価されての結果です。対象となる日本企業500社の中で、NRIはディスクロージャースコアで満点を獲得しました。



次の世代を育てることが、未来につながる



IT戦略体験プログラムの様子

小・中学生や高校生、大学生のために
未来について学び、考える場を提供しています。

NRIグループは自らの企業理念「未来創発」のもと、将来を担う若い世代の育成も大切な役割ととらえ、若い世代が学び、考え、発表する機会を提供しています。例えば、小・中学生、高校生向けのキャリア教育プログラム。情報システムの仕組みがわかる「便利を支える情報システムの秘密」や「IT戦略体験プログラム」「コンサル1日体験プログラム」などを実施しています。また、高校生・大学生・留学生が日本の将来について考える「NRI学生小論文コンテスト」を、2006年から毎年開催。さらに、大学生も参加できるイベントとして、消費者マーケティングデータを活用した「マーケティング分析コンテスト」や、さまざまな立場の参加者がアイデアを持ち寄りカタチにする「NRIハッカソン」も実施しています。事業で培った経験やノウハウを活かしながら、未来を支える子どもたちや学生の教育を支援しています。

『ITソリューション会社図鑑』を監修

NRIが監修した、子ども向けの絵本『ITソリューション会社図鑑』が2016年4月に刊行されました。情報システムが私たちの生活をどのように支えているのか、情報システムの会社はどんな仕事をしているのか、絵本作家によるイラストを豊富に使って解説しています。



健康で、生き活きと働ける職場を



NRI大運動会の様子

社員が心身ともに健康に働ける
「健康経営」を進めています。

社員が能力を発揮しながら生き活きと働ける。そんな環境が、NRIグループの成長の礎です。そのため、社員が健全に仕事に取り組める職場環境づくりにも力を注いでいます。2015年には、社員の活力や生産性の向上、組織の活性化をもたらす「健康経営」をテーマに、その実践に向けてCHO（健康経営責任者）を設置。企業として、社員が心身ともに健康に働けることの後押しをする体制を強化しています。創立50周年を記念して開催された「NRI大運動会」では、社員のみならず、家族も参加し、青空のもとさまざまな競技やアトラクションで汗をかきました。全社で社員の健康管理を考え、社員の意識を変えていくことで、ワークライフ・バランスの改善にも取り組んでいます。一人ひとりが健康で、力いっぱい仕事に取り組み夢を語れる。そんな環境づくりを進めています。

障がい者雇用を進める特例子会社「NRIみらい」

ダイバーシティの拡充に向けて取り組むNRIは、2015年7月に障がい者雇用の促進に向けて新会社「NRIみらい株式会社」を設立しました。同じ年の10月に特例子会社の認定を受けた同社は、障がい者雇用に関する調査研究とともに、従業員に対するマッサージサービス、グループ各社へのオフィスサービスの提供やビジネスサポートの提供を通じて、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。



対話を積み重ねて、社会の要請に応える



さまざまなステークホルダー・ダイアログ

多様な意見に耳を傾けながら
誠実な姿勢で経営を続けています。

事業を通じた社会貢献を基本姿勢とするNRIグループは、社会のさまざまな声に耳を傾け、ときには厳しい意見や評価を受けとめながら、事業活動に取り組んでいます。顧客、株主などステークホルダーの意見はとりわけ重要と考え、毎年いろいろな対話の場を設けています。CSRの専門家、顧客、企業アナリスト、マスコミ関係者などを招いた「有識者ダイアログ」では、社会から見たNRIへの期待について意見を交換しています。また、個人投資家を招いた説明会や、パートナー企業を招いた経営セミナーも実施しています。2015年には、中国・北京で「中国パートナーフォーラム」を開催し、海外パートナー企業との関係を深めました。今後もステークホルダーとの対話を続けながら、社会の要請に応えていきます。

社長と社員との直接対話

NRIでは2011年度から、社長の嶋本正（当時）と社員とが、直接対話する場を設定してきました。2015年度には7月から11月まで課長クラスを対象に42回開催。総数568名の参加者との間で、大企業病の克服、グローバル展開のあり方、変化対応力のある人づくり、などのテーマが話し合われました。



CSRの重点テーマ

NRIグループはCSR活動を推進するうえで、特に重点的に取り組む項目を「重点テーマ」として特定しています。

1 未来に向けた持続可能な社会づくり

社会は豊かさを求めて成長を続けてきましたが、一方でその限界も見えています。増加する人口、枯渇する資源、地球温暖化などのマクロな問題から、国や地域毎の経済、産業、暮らしに関わるミクロな問題まで、次の世代に先送りできない問題が山積しています。NRIグループは、こうした社会課題に対して、調査・研究をもとにした提言や新たな社会の枠組みづくりを通じて、課題解決に貢献していきます。

2 人々の暮らしを支える情報インフラの提供

現代社会において情報システムは、経済や産業、暮らしを支えるライフラインのひとつです。また、限られた資源を効率的に活用できるようにしたり、新たな仕組みと価値を生み出したりします。こうした情報システムを企画・開発し、安定的に運用することがNRIグループの事業の根幹です。信頼される情報システムをつくり、動かし、守り続けることで、社会や暮らしを支えていきます。

3 イノベーションを創出する人づくり

「未来創発」を実現するには、新しい価値や枠組みを考え、変革を創出する人材が欠かせません。そうした人材の育成のために、多様な働き方を受け入れる制度や環境づくり、育成や評価の仕組みづくりなどを推進しています。また、日本や世界の未来を支える学生たちを育てていくことも大切です。NRIグループでは若者の育成を支援するさまざまな施策に取り組んでいます。

CSR重点テーマの設定プロセス

ステップ1
ステークホルダー・ダイアログ

1

NRIグループの活動に対して、さまざまなステークホルダーからご意見を伺う対話（ダイアログ）を実施しています。ダイアログを通じて、外部から見えているNRIグループの姿と、自らが抱く姿とのギャップを認識するとともに、NRIグループに対する要請や期待を把握しました。

ステップ3
重点テーマの設定

3

〈NRIグループの事業の特徴と価値創造プロセス〉、および〈社会的課題の把握〉を踏まえて、NRIグループの事業活動が社会に与える影響、および社会的課題がNRIグループの事業活動に与える影響の両面から、重要性が高いと判断するCSR重点テーマを特定しました。

ステップ2
社会的課題の把握

2

ステークホルダーとのダイアログで得た意見をもとに、ISO26000などCSRに関する各種国際基準やガイドライン等から課題の重要性を判断し、NRIグループに関わる社会的課題を把握、整理しました。

ステップ4
承認およびレビュー

4

重点テーマについては、CSRに関連する部署との間での確認を経たのち、経営層による承認を得ました。今後は、重点テーマに基づく活動をステークホルダー・ダイアログなどにおいて、報告し意見を収集するとともに、重点テーマを見直す機会としていきます。

▲ 社会にとっての重要性

CSRの重点テーマ

1 未来に向けた持続可能な社会づくり

2 人々の暮らしを支える情報インフラの提供

3 イノベーションを創出する人づくり

▶ NRIグループにとっての重要性

CSRブック2016 編集方針

野村総合研究所は、NRIグループのCSR（企業の社会的責任）に関わる取り組みをステークホルダーの皆様にご理解していただくとともに、社内外とのコミュニケーションを図り、取り組みの向上につなげていくことを目的として、2005年から「CSR報告書」を発行しています。「CSR報告書2016」は本冊子（CSRブック2016）と、インターネット上で公開する電子版で構成されます。CSRブック2016はステークホルダーの皆様にとって関心の高い内容や、NRIグループがお伝えしたい内容を、親しみやすく、読みやすくまとめるよう努めました。一方、電子版では、3つの重点テーマを中心とした取り組みや関連情報について詳細に報告します。また、インターネット上で、社会の持続的発展のために行っているCSR活動を、役職員の声や事例を通じて紹介しています（「CSR活動File」）。また、2014年から、NRIの企業価値に関わる重要な財務・非財務情報について関連づけながら、わかりやすく説明する「統合レポート」を発行しています。

CSR報告書2016

1年間のCSR活動の概要をわかりやすく説明

3つの重点テーマを中心とした取り組みや関連情報を詳細に説明

NRIの事業や活動をCSRの視点から具体的なかつタイムリーに解説

本冊子「CSRブック2016」

PDFファイル「CSR報告書2016」電子版
<http://www.nri.com/jp/csr/>
2016年9月末に公開予定

インターネット上「CSR活動File」
<http://www.nri.com/jp/csr/activities/>

会社概要

社名	株式会社野村総合研究所
英文社名	Nomura Research Institute, Ltd.
本社所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル
創業日	1965年4月1日

対象組織
NRIの活動報告を中心に、一部の項目ではNRIグループ全体やグループ各社の活動について取り上げています。

対象期間
2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の取り組みを中心に、一部、過去の経緯や2016年4月1日以降の活動、将来の活動予定についても記載しています。

公開年月
2016年6月（前回公開2015年6月、次回公開予定2017年6月）

商標について
本冊子に記載されている社名・製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。

免責事項
本冊子にはNRIグループの過去と現在の事実だけでなく、発行時点において入手できた情報に基づいた計画や予測が含まれています。諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象がこの計画や予測とは異なったものとなる可能性があります。

「CSRブック」や「CSR報告書」に関するお問い合わせ先
株式会社野村総合研究所
コーポレートコミュニケーション部 CSR推進室
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル
Tel : 03-6270-8200 Fax : 03-6270-8800
E-mail : nri-csr@nri.co.jp

資本金	186億円
従業員数	5,979人（NRIグループ10,757人） 2016年3月31日現在
連結売上高	4,214億円（2016年3月期）
連結営業利益	582億円（2016年3月期）
事業概要	コンサルティング、金融ITソリューション、 産業ITソリューション、IT基盤サービス



野村総合研究所グループ

Nomura Research Institute Group

株式会社 野村総合研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル Tel.03-5533-2111

<http://www.nri.com/jp/>

無断転載禁止 Copyright © 2016 Nomura Research Institute, Ltd. All Rights Reserved.

本冊子は、読みやすいユニバーサル
デザイン文字を使用しています。

